

〈原著論文〉

中国の記叙文の特徴

——大学入試作文の模範解答を資料として——

前 川 孝 子

抄 録

本研究の目的は、中国の記叙文に関し文章としての特徴を明らかにすることである。大学入学試験の国語科目の模範解答集で実際に高得点を取った作文として収録されているものを資料とし、市川孝（1978）の「文の内容の質的相違」、記叙文を書くための6つの要素（時間、場所、人物、事件、原因、結果）、文章表現という3つの観点から分析を行った。その結果、記叙文とは人物行為の叙述を中心として、人物の内面も書かれている文章であることが分かった。また、出来事を単純に叙述する文章ではなく、書き手の意図を伝えるため、人称や話の順序が意図的に選択され、出来事そのものだけでなく、その原因や結果も述べる文章であることが分かった。

キーワード：記叙文、中国の大学入学試験、高考、模範作文、文の内容の質的相違

1. 問題の所在と本研究の目的

本研究の目的は、中国の大学入学試験の国語科目において高得点を取った作文が収録されている模範解答集を資料として用い、作文の一種である「記叙文」の文章としての特徴を明らかにすることである。記叙文は、汪（1998）では、以下のように定義が示されている。

記叙文とは、人物の言葉や行動、起こった出来事の経過を記述し描写することによって、そのストーリーの軸になる主題または意図を表現し反映する文章を指す。一般的に人物、時間、場所、出来事の起因、出来事の経過と出来事の結末の6つが含まれる。これこそが6大記叙要素である。

記叙文指通过记述、描写人物的言行及事件的经过、表达和反映一定的中心思想的文章。一般包括人物、时间、地点、事件起因、事件经过和事件结局等六个方面。这就是所谓六大记叙要素⁽¹⁾。

そもそも中国ではどのような種類の作文を学習するのか、その実態は必ずしも広く認識されてはいない。そのため、まずは、義務教育において学ぶ作文の種類を示し、日本における記叙文の先行研究を述べる。

2011年版の小・中学校の学習指導要領（**义务教育语文课程标准**）⁽²⁾には、記叙性の文章（**記叙性文章**）、説明性の文章（**説明性文章**）、議論性の文章（**議論性文章**）、応用文（**応用文**）を学習することが記述されている。ここでの「記叙性」「説明性」「議論性」の文章は、それぞれ「記叙文」「説明文」「議論文」を指す。また、「記叙文⁽³⁾」「議論文⁽⁴⁾」「応用文⁽⁵⁾」という文章は日本において聞きなれない文章の種類である。しかし、石井（2014）が**栞・頤**（2006）の調査を用い紹介しているように^{(6) (7)}、「記叙文」「説明文」「議論文」は、中・高等学校において作文練習として用いられる文章の種類である。特に大学入学試験では文章の種類を明確にして作文を書かなければならず、作文課題では、「記叙文」を書きなさい、「議論文」を書きなさい」という指示もある。

日本においては、記叙文に関して、以下のような説明が与えられている。

森本・林（1985）「日本の生活文⁽⁸⁾と似たもの」⁽⁹⁾

森本（1989）「中国独特の概念で、広い範囲の文章を含み、（略）記人・叙事・写景、状物の文章であり、部分的にとりあげると、小説や論説もこれに含まれてしまう」⁽¹⁰⁾

南本（1995）「中国独特の概念で、報道文・生活文・故事・伝記・回想記・紀行文・随筆・小品など、叙事・記人・写景などを広く含む文章で、小説や説明文・議論文の一部をさすこともある」⁽¹¹⁾

森山・呂（2009）「記述文とは、ある人物や、起こった出来事、感動した風景、場面などをありのままに述べる文章」⁽¹²⁾

要するに、記叙文とは、日本でいう生活文に似ているが、それよりも範囲が広いというのが、一般的理解といえよう。

以上のような概略の説明を除けば、実際の記叙文の文章を基に、その実態について詳細に論じた研究は管見の限り存在しない。そこで、本論文では以下3つの研究課題をとし、記叙文の特徴について明らかにしていく。

研究課題1：市川（1978）の文の内容の質的相違⁽¹³⁾という観点からその特徴を明らかにする。

研究課題2：記叙文で書くべき要素をとしその特徴を明らかにする。

研究課題3：文章表現の特徴（描写の仕方）について明らかにする。

なお、前川（2022）では、中国人日本語学習者を対象に、日本の意見文を母語での文章の種類にあてはめた場合、どのような文章の種類と捉えるか調査を行った⁽¹⁴⁾。結果、前川（2017）が示す「感想型意見文」を記叙文と捉える回答が51名中37名（72.5%）あった。感想型意見文とは、「根拠に基づき意見を述べるものうち書き手の主観的感想や印象を述べているもの」で、「反論、再反論を通じた主張の証明の文章を含まない」ものをいう⁽¹⁵⁾。記叙文は感想型意見文とどのような点で同じといえるのか、逆にそれらの違いは何か、本研究で得られた知見により、こうした問題にも

答えることができると考える。

2. 資料と分析方法

2.1 資料

模範的な記叙文として、日本の大学入試センター試験に相当する「普通高等学校招生全国統一考試」(通称「^{ガオカオ}高考」)において実際に学生が書いて満点もしくはそれに近い高得点を取った作文、通称「満点作文」から資料を採集する。中国では日本の文部科学省に相当する教育部が公布した「普通高等学校招生全国統一考試大綱」に基づき、高考が実施される。つまり、満点作文は単に評価の高い作文として高考を受験する学生の間に普及しているだけでなく、中国の教育部が示す目標に適った作文であるといえる。なお、試験問題には全国共通問題の他、省・市独自で作成された問題がある。

本研究では、2015年から2016年における満点作文の中から1課題につき5編の作文を収集できたものを対象とし、4課題20編を分析した。作文の出題形式は「材料作文」と呼ばれるもので、与えられた数行の文章(材料)を読み、そこから受験者が想像を働かせながら課題の要求に基づいて作文を書く。なお、「材料作文」の他に作文の題名が決められている「命題作文」があるが、本研究で用いた満点作文の資料集では、命題作文は2つの年度の2地域に存在するだけであり、最近一般的な出題形式ではないと考えられる。以下、作文には資料番号を付すが、jの後の数字は課題番号、ハイフンの後の数字は各課題の中での資料番号を指す。資料の詳細は稿末のとおりである。

2.2 分析方法

ここで先に掲げた分析方法を整理していきたい。

研究課題1は日本語学における文章分析の方法を用い、研究課題2は定義に示されている記叙文の6要素を基に分析し、研究課題3は、描写の特徴をとおり分析をする。これら日中の文章分析を横断的に用いることにより、より客観的に記叙文の特徴について把握できると考える。なお、詳細な分析方法については、各章ごとに述べていく。

3. 文の内容の質的相違

3.1 分析方法

本研究では、分類基準に市川(1978)を用い分析を行う。市川(1978)では、文と文との展開を問題にする場合に、文の配列として、「事実を述べた文」(以下「事実」とする)、「見解を述べた文」(以下「見解」とする)、「事実と見解を交えた文」の3種類に分けたうえで、文が配置される様相

を問題にしている。市川（1978）のいう「事実」とは、小説などの創作的事実をも含む、客観的な事態や事柄のことであり、「見解」とは、意見・感動・要求などの、主観的な立場を指す⁽¹⁶⁾。また、前者は「人間が主体となる事柄」「人間をとりまく環境」「人間の内面」、後者は「意見」「要求」「感動」という下位分類を有する。

本研究では、市川（1978）が「事実」と「見解」の下位分類として設定したものをを用い、それらの比率をふまえて、一つの文章がどのような文によってどのように組織されているかを分析することで、何がどのように書かれているか（書き手の側からいえば、何をどのように書いたか）という叙述の様相を明らかにする。表1がそれをまとめたものである。さらに、これから述べる場面に ついて書き手が言及する表現や仮定の表現として「場面設定」を加えた。これは、事実にも見解にも分類不能でありながら、文章の展開のうえでは、重要な役割を果たしているからである。この場面設定という用語は、林（2013）⁽¹⁷⁾の用法を踏襲するものである。

表1 文の内容の質的相違による分類基準

	大分類	中分類
A. 事実	1. 人間が主体	a. 行為・行動・事件
		b. 内面
B. 見解	2. 人間をとりまく情景・外界・自然現象	1. 意見（批評・評価・確信・疑問・推測・意思・願望）
		2. 要求（問い・勧誘・命令・禁止・依頼と要望）
		3. 感動
C. 場面設定		

なお、分類に際し、成句や特徴的な表現による描写であっても、主たる内容に基づいて分類する。例（1）における“浑浑噩噩”は、「ぼうっとして」という成句であり、書き手の主観的な態度であるといえるが、「A. 事実 1. 人間が主体 a. 行為・行動・事件」とする。

(1) 上一次，他浑浑噩噩地度过半学期，最终没能及格。

先学期，彼はぼうっとして半分の学期を過ごし，ついに合格ができなかった。(j1-3)

以下，例を示す。

A. 事実 1. 人間が主体 a. 行為・行動・事件

(2) 我一松手，弟弟摇摇晃晃地开始走路。(j1-1)

私が手を緩めると，弟はふらふらと歩き始めた。

A. 事実 1. 人間が主体 b. 内面

(3) 几十年前的青春火苗，竟把家里的气氛“焐暖和”了，我感叹它的魔力。(j2-2)

数十年前の青春の炎は、家の雰囲気「暖め」たが、私はその魔力に感嘆した。

A. 事実 2. 人間をとりまく情景・外界・自然現象

(4) 午后的阳光肆意地打在他的脸上。

午後の太陽は彼の頬にキラキラと射し込んでいる。(j3-1)

B. 見解 1. 意見（批評・評価・確信・疑問・推測・意思・願望）

(5) 如今，我手抓行囊，要去做一个高飞的风筝。(j3-1)

今、私はリュックサックを抱え、高く飛び上がる凧にならなければならない。

B. 見解 2. 要求（問い・勧誘・命令・禁止・依頼と要望）

(6) 这么写，不算“跑题”吧？(j4-1)

このように書くのは、「脱線」のうちに入らないのではないですか？

B. 見解 3. 感動

「B.3. 感動」は、市川（1978）で設定されているものであるが、具体的な文例は挙げられていない。本研究では感動を示す主観的な感情表現とする。

(7) 是的！（j2-5）

そうだ！

C. 場面設定

(8) 高中生活，终于迎来了尾声。(j4-4)

高校生活は、ついに終わりを迎える。

なお、戦後日本の国語教育の学習指導要領では、「事実」と「意見」（市川では「見解」に当たる）との区別を明らかにして文章を書くことが強調されてきた。そのため、事実と意見の書き分けは日本語の文章としては基本的なものであるといえる。

3.2 結果

表2は文の内容の質的相違の結果を作文ごとにまとめたものである。全作文の文の総和は590文

である。結果から、「A.事実 1.人間が主体 a.行為・行動・事件」が377文（全体比63.9%）と最も多くを占めていることが分かる。次に多いのが「A.事実 1.人間が主体 b.内面」で108文（全体比18.3%）であり、両者を併せて485文（82.2%）となる。この結果から、記叙文は人物の記述が主たる叙述であることが分かる。

一方、j2-1, j3-3, j3-4はA.1.bの人物の内面が書かれていないが、何れも描写や会話により人物の内面が想像できるものである。

表2 記叙文における文の質的差異の結果

資料	文の数	A. 事実			B. 見解			C. 場面設定
		1. 人間が主体		2. 情景・ 外界・ 自然現象	1. 意見	2. 要求	3. 感動	
		a. 行動	b. 内面					
j1-1	27	17	7	1	1	—	—	—
j1-2	28	4	15	—	7	2	—	—
j1-3	35	28	1	3	3	—	—	—
j1-4	27	19	4	—	4	—	—	—
j1-5	32	23	7	1	1	—	—	—
j2-1	30	29	—	1	—	—	—	—
j2-2	32	22	5	4	1	—	—	—
j2-3	25	6	5	4	10	—	—	—
j2-4	23	18	3	1	1	—	—	—
j2-5	31	18	5	2	4	—	1	1
j3-1	46	28	8	6	2	—	—	2
j3-2	18	4	9	4	—	—	—	1
j3-3	22	22	—	—	—	—	—	—
j3-4	21	20	—	1	—	—	—	—
j3-5	31	29	2	—	—	—	—	—
j4-1	33	13	16	—	3	1	—	—
j4-2	35	21	6	4	4	—	—	—
j4-3	34	16	11	6	1	—	—	—
j4-4	34	17	3	3	9	—	—	2
j4-5	27	23	1	1	2	—	—	—
合計		377	108	42	53	3	1	6
比率		63.9%	18.3%	7.1%	9.0%	0.5%	0.2%	1.0%

※「比率」は小数点第二位を四捨五入したものである。

- (9) 风吹到了最大，将他的身体拉出了一条漂亮的弧线，在那一刻，他脸上的皱纹彻底绽放，宛如夏花。(j2-1)

風が吹くのが最も強くなると、彼の体を押し出して、一筋のきれいな弧ができた。その時、彼の顔の皺は、余すところなくほどけて、まるで夏の花のようであった。

- (10) 他紧握拳头，许久都没有松开。(j3-3)

彼は握りこぶしをしっかりと握り、しばらくは開かなかった。

- (11) “怪不得我失去了同伴，失去了老人家的信任呢！”(j3-4)

どうりで仲間を失って、老人の信頼を失ってしまったのだ！

4. 記叙文の要素

4.1 分析方法

冒頭で述べたとおり、記叙文には、「人物」「時間」「場所」「出来事の起因」「出来事の経過」「出来事の結末」の6つの要素を書かなければならない(汪1998)⁽¹⁸⁾。さらに、人物には、「一人称と三人称という2種類の角度の表現がある」。また、叙述の仕方には「順叙、倒叙、挿叙、平叙、補叙」がある⁽¹⁹⁾。

なお、順叙とは、事件が起きた順序通りに書くことであり、倒叙とは、事件の結末、クライマックス、あるいは、最も強調したい部分を最初に書き、その後、時間的に本来前に起こっていた出来事を書くことである。挿叙(カットイン)とは、順番通りに述べていながら、表現の必要に応じて、関連のある別のことを挿入し書くことである。平叙とは並行叙述の意で、違った場所で同時に発生したことを叙述することであり、日本語の平叙とは異なる。補叙とは、叙述の過程や結論で解説、説明を加えることである⁽²⁰⁾。

4.2 結果

記叙文の要素の結果は、表3から表6のとおりである。表の初めに問題文(材料)の日本語訳を掲載する。主人公の「人称」「主人公」「場所」「時間」「叙述の仕方」(ここでは「方法」と記述する)を記し、「出来事の起因」「出来事の経過」「出来事の結末」は作文の内容としてまとめた。

先ず一人称で書かれたものが12編、三人称で書かれたものが7編、そして、上記の定義にはなかったが二人称で書かれたものが1編あった。j3-1の題名では「私の父」(我的老爸)と書かれているが、文中では彼(他)と表わされている。j3-2を除いて、主人公以外に人物が登場し、話が展開されている。場所は、家の中が12編、j1-2は場所が書かれていないが、母が子供に語りかける内容で

表3 課題j1における記叙文の6要素の特徴

2016年出題 対象地域：全国共通I（河南，河北，山西，河西，湖南，湖北，広東，安徽，福建）⁽²¹⁾

下の漫画資料を読んで、要求に基づき800字以上の文章を書きなさい。要件：資料の内容と寓意を組み合わせ、適切な角度を選択し、構想をはっきりさせ、文体を明確にし、自分で題名をつけること。人の作文を真似たり、剽窃をしたりしない。

（漫画では、時計まわりに右上から、55点の解答用紙を持ち頬に平手打ちの跡がついた子供、61点で頬にキスの跡をつけた子供、98点で頬に平手打ちの跡がついた子供、100点で頬にキスの跡をつけた子供の4人が描かれている。）

資料番号	題名	人称	主人公	場所	時間	作文の内容	方法
j1-1	走的更远 さらに遠くの歩み	一	私	部屋	夏昼	足の不自由な赤ん坊の弟が歩く練習をしている。歩行が出来ない弟をみて、「私」はいらだちを爆発させる。しかし、母が弟と歩行の練習をする姿をおし、「私」は初めはレベルの低いところからの出発であっても成長をすること自体が実は素晴らしいことであることに気が付く。	順叙
j1-2	孩子，听妈妈和你说 お母さんの話を聞いて	二	母	一	昨日の夜	「私」（母）は、「あなた」（兄の大宝）に手をあげる。その理由は、100点満点のテストで98点を取ったからだ。大宝には弟の小宝がいる。二人は性格が全く違う。そして、小宝が大宝よりも40点も低い点数を取ったとしても、それを褒めた。母が手を挙げたのは、大宝に期待をしているからであり、大宝を大切に思っているからだと言す。	倒叙
j1-3	吻与巴掌 キスと平手打ち	三	兄の毛少	毛少の部屋	夏の夜	弟の毛多は、試験で60点の合格ラインに達したことを喜び、兄の毛少に報告しようとしたがそれを飲み込んだ。以前、弟が怠けて合格点を取れなかった時、母は弟を殴り、兄にはキスをしていた。母は成績を重んじている。その時、兄は「僕たちは一緒だ」と話していた。今回、兄の泣きはらした顔を見て、弟はその話が間違っていないことに気が付く。弟は兄の手を握りしめ「僕たちは一緒だ」と繰り返し、話をする。	挿叙
j1-4	爱的畸变 愛のゆがみ	一	私	家	夜	母の「私」に対する態度は、成績によって優しくなったり厳しくなったりする。ある日、「私」が98点の成績を取った時、母は激怒し叩き、説教をし、涙を流した。その後、「私」は部屋に戻り、宿題をした。いつの間にか、眠ってしまい、夢の中で巨大な100点に変身していた。母はその姿を見て、大喜びをしていた。目を覚めた後、「私」は母の愛情を受ける唯一の方法は母が満足する点数を取ることだということに思い至り、涙を流す。	順叙
j1-5	永远的悔 永遠の後悔	三	彼	墓	毎日、5年前	彼は毎日息子の墓参りに行く。息子は5年前の16歳の時に、期末試験が終わると17階から飛び降りこの世を去った。彼は息子が98点の成績を取ったことを理由に憤り嘆いて涙を流し、「お前に対して責任がある」と言った。墓参りの帰り、彼は小さな子供を連れた母親を見かける。子供に母親は、一点下がっただけでも親の責任で殴ると話をする。子供は「僕に対してではなく、成績に対しての責任だ」と言い返す。彼は子供の言葉で、自分の間違いを思い出し、更に後悔をする。	倒叙

表4 課題 j2 における記叙文の6要素の特徴

2014年出題 対象地域：江蘇省⁽²²⁾

以下の資料を拠り所にし、角度を選び、自分で題名をつけ、800字以上の文章を書きなさい。

ある人は、生命は不朽ではないが、ただ青春は不朽であると述べている。また、ある人は、青年は老いる日が来ることを信じていないが、この感覚は浅はかで、私たちは自他を騙し騙しして、自然と同じように長命で不朽であるという信念を抱いているのだと述べている。

詩や歌を除き、文体に限定はない。

資料番号	題名	人称	主人公	場所	時間	作文の内容	方法
j2-1	跳水 水に飛び込む	三	彼	橋の上	老年期, 少年期	彼は古い橋の上に立っている。人生最後の時を迎え、水に飛び込んでみたいと思っていたからだ。橋の上で、少年時代、彼は幼馴染と一緒に川に飛び込んだことを思い返す。葉と共に一枚の写真を取り出した彼は、葉を風に乘せて捨てる。一枚の写真は、幼馴染と水中に飛び込んだ後の写真であった。そして、弧を描いて飛び込む彼は思う。「人は死に至れば皆少年だ」と。	挿叙
j2-2	青春万岁 青春万岁	一	私	部屋	引っ越し	「私」は両親と引っ越しの準備をしている。荷物の整理から、青春時代の思い出の品が出てきて、両親は一つひとつの思い出に夢中になる。「私」は両親の姿から、時代は過ぎ去ったとしても、青春は朽ち去るものではないということを感じていく。	順叙
j2-3	朽叶的栀子花 葉が朽ちたクチナシの花	一	私	焼き餃子店	朝, 夕方	「私」はあるクラスメートの祖母と同年代の女性の焼き餃子店に通っている。そのお店では、クチナシの花とリングを混ぜたソースが隠し味だ。「私」はその女性を見て、心の柔らかさと繊細さは容姿に勝ることがあると感じる。「私」は女性を思い出すたびに、青くて露のついたクチナシの絵の小皿を思い出す。	順叙
j2-4	永不褪色的老照片 色褪せない古い写真	一	私	家	現在	祖母はかつて祖父と一緒に取った1枚の写真を大切にしている。その写真は古すぎてほやけている。戦争で亡くなる前、新しく開いた写真館で取ったものだ。両親や「私」は携帯電話でたくさんの写真を取ることを勧めるが、祖母は乗る気にはならない。「私」は祖母から、多くの写真を撮ってそれを残しておくより、人生の貴重な瞬間を捉えた写真こそが大切であるということを知る。	順叙
j2-5	开放在夕阳中的“向日葵” 夕日に咲くひまわり	一	私	家, ダンススタジオ, 舞台	母の退職後	退職後の母は、「私」と一緒にラテンダンスのレッスンの申し込みに行く。その時、母はスタジオに飾ってあったゴッホの絵に魅了され、うすすらと涙を流す。母はこれまで子育てで必死の毎日を送っていた。一か月後、ラテンダンスの大会があり、母は一位になった。大会の前、母は「私」たちに「びっくりするよ」と言う。大会ではあの時のゴッホの「向日葵」が躍っていた。その姿は青春の情熱が澎湃として燃えるような光を放っていた。	順叙

表5 課題j3における記叙文の6要素の特徴

2016年出題 対象地域：山東省⁽²³⁾

下記の資料を読んで、自身で感じたことや連想したことから、800字以上の文章を書きなさい。

リュックサックの準備は既に終わり、旅行を始める。道のりは果てしくなく長く、リュックサックの中身をあちこち調べ気が付いた。あるものはすぐに使い、あるものはしばらくの間用いず、あるものは使うつもりだがまだ準備ができておらず、あるものは自分たちと一緒に遠くへ行く可能性がある……。

要求：①角度を決めて、構成を定める、②自分で題名をつける、③詩や歌を除き、文体に限定はない、④文章の種類の特徴ははっきりとしていること。

資料番号	題名	人称	主人公	場所	時間	作文の内容	方法
j3-1	我的老爸， 我的行囊 私の父，私のリュックサック	一	私	バス， 家， 学校	大学入 試前	「私」は彼（父）と一緒にバスに乗る。乗車している間、「私」が不可抗力で同級生を怪我させてしまい、父が学校に謝りに行った時のことを思い出していた。昨夜、「私」は、リュックサックの肩紐の糸がほどけていたので、別の鞆に取り換えた。今朝、そのリュックサックの肩紐は一針一針縫われていた。それは父が縫ってくれたものだった。「私」はリュックサックを肩に背負った。そのずっしりとした重たさは、父の力とやさしさであった。	挿叙
j3-2	书到用时方 恨少 使う時 になって初めて読書の足りなさを憾む	一	私	大学入 試会場	大学入 試	「私」は、大学入学試験で国語の試験を受けている最中である。作文の問題に取り掛かったが、なかなか進まない。試験終了15分前に選択肢の解答に色を塗っていないことを発見されて、作文は放棄した。「私」はスカスカの作文を見て、初めて読書の足りなさを憾み、ため息をついた。	順叙
j3-3	行囊 リュック サック	三	彼	家， 部屋	大学入 学前	村に住む「彼」は、〇〇大学の試験に村で初めて合格した。母は彼の生活費を出す余裕はないと話したが、彼は自分で工面すると話した。出発の時、彼の担任だった李先生が一通の手紙を渡した。手紙には、「人は皆、自分のリュックサックを持っている。人と比べるな。あなたのリュックサックに入っているものは他の人は持っていない。」と書かれていた。	挿叙
j3-4	请把“诚信” 带上路 誠実をもつて道を歩く	三	旅客	山の道， 大きな河辺	朝	主人公（旅客）が、同伴している旅客に、両方のリュックを片方が持って交差点まで歩こうと提案する。しかし、交差点にたどり着いても主人公は次の交差点までだと嘘をつく。同伴の旅客は誠実さと信用がないと怒るが、主人公はそれらは何かと尋ねる。主人公は一人になり、大きな河辺にたどり着くと、船にのった老人が10円で送るよと声を掛ける。リュックサックには、お金のほか、努力、健康、知識が入っていた。お金を払う時点になり、主人公はお金はないと言い出し、老人も前の旅客と同じことを言う。そこで、主人公は、出発の時、母が匂い袋を手渡してくれたが、枕の下において出発したことを思い出す。主人公は誠実さと信用の大切さに気付き、踵を返した。	順叙
j3-5	备好行囊 バックを準備する	三	彼女	家，山	浪人時 代	一浪した「彼女」は再度大学受験に失敗する。彼女の叔母が登山に誘う。登山の途中、叔母は彼女のリュックサックを開け、山を登る時のリュックサックは人生の旅の中の鞆のようなものだという。叔母は帰ってもう一度荷物を準備してまた出発をしようと言う。彼女は、山の頂上を目指して登ろうと話をしする。	順叙

表6 課題 j3 における記叙文の6要素の特徴

2015年出題 対象地域：江蘇省⁽²⁴⁾

以下の資料を拠り所にし、角度を選び、自分で題名をつけ、800字以上の文章を書きなさい。詩や歌を除き、文体の限定はない。智慧とは一種の経験であり、能力であり、境地であり……大自然のように智慧には自身のありさまがある。

資料番号	題名	人称	主人公	場所	時間	作文の内容	方法
j4-1	瞳孔之内 瞳の内	一	私	大学入 試会場	大学入 試	「私」は大学入試で作文を書いている。「私」は試験中、人の瞳の中で人生は演じられ、そこから出られないということを考えている。作文の解答で「智慧とは何か」「智慧の領域とは何か」を「私」は考えている。そして、「私」は智慧のある人は自身が永遠に他の瞳の中で生きていることを知っており、人の瞳の中で生きていくというのは、冷静で泰然としていて、得難い知恵であるということが分かった。	順叙
j4-2	王大爷的早餐店 王おじさんの朝食屋	一	私	朝食屋	朝	「私」の住んでいる近くに王おじさんの朝食屋がある。そこは小さくて古い店だが、衛生的で美味しく、値段も安いままで、誰もがそこで茶卵とおかゆを食べるのが好きだ。王おじさんは客と楽しそうに話をする。王おじさんが生活に満足して生きている姿をとおして、王おじさんは賢い人だと気づく。	順叙
j4-3	鸡婆 鶏ばあさん	三	王おば さん	村	数年前	数年前、村ではブドウ栽培が流行した。王おばさんのうちも例外ではないが、なぜか鶏を何十匹も買っている。村中の人は王おばあさんのことを「バカな鶏ばあさん」と呼ぶようになった。ブドウに実がなるようになった。王一家のブドウは何故か村人のよりも大きく、甘かった。村人は聞いた。「どうして王一家は喜んでるのか?」「農薬や肥料にお金を使っていない。」「虫はどこだ?」「鶏の腹だ。」「雑草は?」「鶏がつついた。」「肥料は?」「鶏の糞だ。」村人はやっと鶏を飼っている意味に気が付いた。王おばあさんは無口だが時々独り言を言う、「苦心しろ」と。おばあさんの智慧の秘密は苦心することにある。	順叙
j4-4	智慧，就藏在房间里 智慧は部屋に隠れている	一	私	家	小学生から高校生	「私」の父は、私が小学校、中学校、高校と上がるたびに、家を買って、引っ越しをし、家を売って、4、5回繰り返している。父が決めて買った家の近くには有名な学校があった。「私」は、引っ越しをするたびに心身ともに成長をしていく。高校生活が終わりを迎える時、「私」は父に聞いた。「お父さん、引っ越しをするの」と。父は、「お前が出て行ったら引っ越しはしない」と答えた。「私」は、それが「私」のためであったことが分かった。父の引っ越しには、深い知恵があるようだ。	順叙
j4-5	凡人智慧 凡人の智慧	一	私	作文教室のある祖父の家	ある日	祖父は定年退職をした国語の教師で、作文教室を開いている。「私」は祖父が子供たちと詩を読んでいる姿を見て批判をしたが、祖父は趣味が才能になると答える。祖父の4人の娘は、大成をしている。ある人が祖父に教育方法について聞いてみると「愚鈍で不器用な人には愚かな方法がある」と答えた。それは、大人になってから特別な干渉をせず、手助けをしなかったということだ。それによって、子どもたちは自分で人生を切り開いていったそうだ。祖父は自然体で、多くの人が及ばない、凡人の智慧で生きてきた。	順叙

あることから、家であることが想定される。次に近所が3編、大学入学試験会場が2編、それ以外に自然の場所が2編、墓場が1編である。時間については特定がされないが、大学入試に関わる時間帯であるものが4編あった。また、叙述の順序は、順叙が14編、挿叙が4編、倒叙が2編あり、平叙と補叙は見られなかった。

5. 記叙文の文章表現

5.1 分析方法

記叙文とは、人物や出来事を「記述し描写することによって」(記叙文指通过记述, 描写)⁽²⁵⁾ 主題や意図を表現する文章である。本章では、どのように記述、描写を行うかという点に注目し、記叙文の特徴を検討する。資料はy2-1“跳水”(水に飛び込む)を用いる。最初の列の数字が段落番号、次の列の丸数字が文番号を示し、原文、日本語訳の順で記述する。

跳水(水に飛び込む)(j2-1)

段落番号	文番号	文
1	①	他终于又一次站在了这座桥上。 彼はとうとうまたしてもこの橋の上に立った。
2	②	他用皱巴巴的巴掌摸着桥上满是缺口和裂痕的栏杆, 在心中这么想着。 彼はしわくちやの掌で割れ目とひびに満ちた橋の欄干をさすって、心の中でこんなふうにした。
3	③	这座桥很高, 离水面至少有十米, 长年累月的江风锤炼着这座旧桥, 在它的身上刻下了一道道的伤疤。 この橋は高く、水面まで少なくとも十メートルはある。年月を重ねた河の風はこの古い橋を鍛え上げ、そこにたくさんの傷痕を刻み込んでいた。
4	④	桥很老, 而人更老。 橋は古びていた。しかし人はもっと老いていた。
4	⑤	比这座桥还要大上几岁的他再一次来到了这座桥, 因为他决定, 在他人生的最后时刻, 再做一次让自己怀念无比的事——跳水。 この橋に比べれば何歳か年上である彼は、またしてもこの橋に来た。彼は、人生の最後の時になって初めて、一度は自分でこの上なく懐かしいことをやってみようと思ったからであった——それは水に飛び込むことだ。
5	⑥	他慢慢地摸索到了桥边的缺口, 步幅缓慢而无力, 仿佛一座随时可能倒下的老朽雕像, 做着最后的挣扎。 彼は長々と橋の縁の割れ目を手でさすっていた。歩幅は緩慢で力無く、いつ倒れてもおかしくない古びた彫像のように、最後のあがきをしていた。
6	⑦	今天的风很大, 不由得让他想到了和发小一起跳水的日子。 今日の風は強く、彼は幼馴染と一緒に水に飛び込んだ日を自然に思い出していた。
6	⑧	那些日子风也很大, 常常吹得桥上的他们摇摇欲倒, 但他们都还不以为意。 その日の風も強く、ずっと吹いていたので、橋の上の彼らはゆらゆらして倒れそうだった。しかし、彼らは気にしていなかった。

段落 番号	文 番号	文
6	⑨	“有风的日子更能滑出漂亮的弧线”，这是他们公认的道理。 「風のある日には、きれいな弧を描き出せる」，これは彼らが共有していた認識だった。
7	⑩	他继续移动着，然后从栏杆的缺口探出了头，十米的高度让他有些头晕目眩。 彼は移動を続け、その後、欄干の割れ目から頭を突き出した。十メートルの高さに頭がくらぐらし目眩がした。
7	⑪	不知不觉地，他又想起了少年之时，他第一次站在桥上也是这么失晕目眩。 知らず知らずのうちに、彼はまた少年の時を思い出した。彼が最初に橋に立った時もこのように頭がくらぐらして目眩がした。
8	⑫	十米远的水面让年轻的他不自觉地打战。 10メートル下の水面に、年若い彼は思わず震え上がった。
8	⑬	“跳吧！没关系的。”「跳べよ！大丈夫さ」
8	⑭	水中的发小这么喊着，他咬咬牙，再次盯住了水面，然后跳下。 水中の幼馴染はこんなふうにかんづいて叫んでいる。彼はちょっと歯ざしりし、もう一度、水面を睨みつけて、その後、飛び込んだ。
8	⑮	水花溅了一米多高，将他的发小彻底打湿。 水しぶきが1メートルの高さまで飛び跳ね、彼をけしかけた幼馴染はずぶ濡れになった。
8	⑯	“没关系吧？”「大丈夫だろ？」
8	⑰	发小问。幼馴染は質問した。
8	⑱	“嘿。”「へへっ」
8	⑲	他摸了摸红红的屁股，咬了牙答道。 彼は真っ赤になったお尻をちょっと撫でて、歯ざしりして答えた。
8	⑳	然后在发小促狭的笑声中，狠狠地给了他一巴掌。 その後、幼馴染の悪ふざけた笑声の中で、憎々しげに彼にビンタをくれてやった。
9	㉑	“年轻真好。”「若いということは本当に良い」
9	㉒	他回过神来，继续看向了水面，盯着，盯着，仿佛看到了当初的自己。 彼は意識を元に戻し、水面に目を向け続け、にらんで、にらんで、どうやら昔の自分を見出したらしい。
9	㉓	年轻，健康，有活力，和现在的他完全不同。 若く、健康で、活力があり、現在の彼とは完全に違っていった。
9	㉔	从胸口的口袋中摸出了药和一张照片，他突然笑着将药顺着风扔了出去，药落在了水面上，溅出一朵小小的水花。 胸元のポケットから、薬と一枚の写真を探り出すと、彼は突然、笑いながら、薬を風に乗せて投げ捨てた。薬は水面に落ちて、ささやかな水しぶきを上げた。
10	㉕	药是医生给的，但他觉得自己不需要了。 薬は医者がかくれたものであったが、彼は自分には必要ないことに気がついた。
10	㉖	生老病死是人之常情，只要自己的心还年轻，他就无所畏惧。 生老病死は人の常であるが、自分の心が若い限り、彼には恐れるものがなかった。

段落 番号	文 番号	文
11	㉔	静静地，风再次起了，他最后看了眼自己当年从水中爬出的照片，然后猛地跳了出去。 静かに，風がまた起こると，彼は，当時，自分が水中から這い上がった写真に目をやって，その後，にわかには跳び出した。
12	㉕	风吹到了最大，将他的身体拉出了一条漂亮的弧线，在那一刻，他脸上的皱纹彻底绽放，宛如夏花。 風が吹くのが最も強くなると，彼の体を押し出して，一筋のきれいな弧ができた。その時，彼の顔の皺は，余すところなくほどけて，まるで夏の花のようであった。
12	㉖	“就是这样。”「こういうことに過ぎないのだ」
12	㉗	他想到，“人至死都是少年！” 彼は思い到った。「人は死ぬばみな少年だ！」

5.2 結果

この文は一種の掌編小説であり，内容は完全なフィクションである。問題文で要求された，生命の不朽や青春・老いという主題について書くため，橋の上から投身自殺をする老人というショッキングな設定を用い，水に飛び込むまでの彼の意識の変化というかたちで叙述を展開している。結論は，㉖の「自分の心がまだ若い限り，老いを恐れることはない」ということであるが，それを導き出すために，現在の彼の境遇（㉔から㉖），少年時代の水遊びの様子が丹念に描写され（㉗から㉙），それらを重ね合わせることで主人公が一種の諦観に達し（㉚から㉜），飛び込むまでが描かれる。自殺であることは，主人公が葉を捨てる描写で暗示されている（㉜㉝）。主人公が立っている橋が老朽化していることを示し（㉔㉕），それが主人公の少年時代にできたことを示唆すること（㉖）で，主人公の老いを強調している。さらに，㉖の結論は，飛び込んだ時の詩的な描写（㉗）や主人公の最後の感懐（㉚㉛）によって補強されている。

この文章は他の記叙文と比べてもかなり内容が極端であるが，このように具体的な描写を重ねながら，読者を引き込み，特定の主題について考えさせることが，記叙文における描写であり，単に実際に起こったことをそのまま書くのではない。主題や結論に向けて意図的に特定の場面や状況が描かれるとともに，主題や主張はあくまで暗示・示唆されるにとどめられ，描写を通じて読者に考えさせるように構成されているといえよう。

6. 考察

記叙文は，「人物の言葉や行動，起こった出来事の経過を記述し描写することによって，そのストーリーの軸になる主題または意図を表現し反映する文章」であるが，上述の検討から，基本的には人物描写が中心となっているといえる。場面設定は家庭が中心であるが，これは受験生にとって最も身近な場面だからであろうということが推察される。そして，表現としては，暗示的・文学的な描

写や構成によって、主題へと読者を導くものといえる。

ここから、大学入学試験の解答作文としての記叙文においては、問題文で示されたイラストや文章を材料として、解答者が創作を行い、自身の伝えたい主題を的確に伝えるため、誰を登場人物として選び、どのようなストーリーを、どのような時間軸ならびに叙述順序に配置するかを考えながら書くものであることが分かる。それ故、記叙文は、平板な出来事の描写ではなく、表現効果を意識したものであることが示唆される。また、記叙文が試験の場で書かれることをふまえれば、書き手（受験者）の国語能力や知識を測定するものであること、特定の文章形式として書くべき要素が厳密に定まっていることが理解される。

第1章で中国人日本語学習者が日本の感想型意見文を記叙文と捉える回答が一定数あったことを述べた。これは、彼ら／彼女らが、母語で受けた作文学習により、叙述の仕方（論拠・論証をとまなわれない出来事の記述）や文章の内容（素材が身近な出来事）などに注目したためであると解することができる。逆に、中国人日本語学習者が日本語の作文を書く場合も、このような記叙文の枠組みが影響していることを考慮しておく必要があるであろう。

7. まとめと今後の課題

記叙文とは、人物を叙述するとはいえ、そこにはある主題や意図が含まれている文章であるということが分かった。そのため、書かれた文章には実際に書き手が体験していないことが書かれていることも想定される。事実、今回の資料として用いられた作文においても、受験者の年代から考えて、明らかに本人のことについて書かれた文章ではないことが分かる。叙述としては、描写によって生き生きとありのままの表現がなされていたとしても、それは、日本の学校教育で書く作文のように事実を述べる文章ではなく、主題を伝えるための創作という側面が強い。

今後の課題としては、中国人日本語学習者が書く作文に記叙文の影響がどの程度あるか検討していきたい。

注

- (1) 汪丽炎《汉语语文学知识丛书汉语写作》上海大学出版社 1998 p. 269.
- (2) 中华人民共和国教育部《义务教育语文课程标准（2011年版）》北京师范大学出版 2012 pp. 16-17.
- (3) 「記叙文」は中国の“记叙文”の直訳である。本稿ではその他の用語についてもその方法を踏襲する。中国語の直接引用や分析で用いる中国語には、日本語訳を示す。定義を述べる場合には、先に日本語を記し、次に中国、それ以外については、先に中国を記し、次に日本語を示す。翻訳はすべて筆者による。
- (4) 意見の論述を主な表現方法とし、客観的な道理に対して分析評論を行う文章の種“以议论为主要表达方式对客观事理进行分析评论的文章体裁”庄涛・胡郭骅・梁冠群主编《写作大辞典》汉语大词典出版社 2003 p. 380.

- (5) 人々の日常生活, 学習, 仕事の中での対人関係, 事業活動や公務の遂行などについての文章の種類 “人们在日常生活, 学习, 工作中用于人际交往, 事务活动和公务处理等方面的文章体裁” 前掲 (4) に同じ。庄他 p. 393.
- (6) 石井光夫「第2章中国における「書く力」の養成—大学入試における作文問題を中心に」東北大学高等教育開発推進センター編『「書く力」を伸ばす—高大接続における取組みと課題—』東北大学出版会 2014 pp. 176-177.
- (7) 栞胎愛・顾东臣“对新课程背景下中学作文教学现状的调查与思考”《青岛大学师范学院学报》23(2) 2006 p. 115.
- (8) 生活文とは「生活者である子供たちが, 自分と関わる自然や社会, 人間の事物や, それらの内容に潜むものに触れたときに, 考えたことや感じたことつか握み取ったものを, ありのままに詳しく生きと表現したもの」土田茂範「生活文」『国語教育辞典(新装版)』朝倉書店 2009 p. 245.
- (9) 森本正一・林佐平「中華人民共和国における国語科教育—その9 大学入試の作文問題について」『広島大学教育学部紀要』1(8) 1985 p. 97.
- (10) 森本正一「中国の中等教育における国語教育」『日本語学』8(5) 1989 p. 88.
- (11) 南元義一『中国の国語教育』溪水社 1995 p. 41.
- (12) 森山卓郎・呂曉東「中国における作文指導—中学校を中心に—」『国文学会誌』35 2009 p. 77.
- (13) 市川孝『国語教育のための文章論概説』教育出版 1978 pp. 104-107, pp. 130-135.
- (14) 前川孝子「中国人日本語学習者の意見文の捉え方—学校教育における作文学習を背景に—」『国際日本研究』(14) 2022 p. 96. (近刊)
- (15) 前川孝子「意見文における意見の類型とその変遷—国語教科書(1960年代~2010年代)のモデル作文を資料として」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』(9) 2017 p. 66. (<http://academicjapanese.jp/dl/ajj/ajj9.64-72.pdf>) < 2020年11月12日 >.
- (16) 前掲(13)に同じ。p. 51.
- (17) 林(2013)は, 文章ジャンルによって書きはじめの文のタイプや用語に傾向があると考え, 流れを作る最初の機動力がある文を「始発型の文」と名付けた。「場面設定」は「始発型の文」の一つである。なお, 林(2013)では, 特定の語句により始発型の文であることが明示的に分かる文を「始発記号による始発型」, 特定の語句はないが文そのものに始発性が見られる文を「始発要素による始発型」としているが, 本研究では両者の区別なく, 「場面設定」とする。林四郎『文の姿勢の研究』(1973年復刊版) ひつじ書房 2013.
- (18) 汪丽炎《汉语语文学知识丛书汉语写作》上海大学出版社 1998 p. 269.
- (19) “有第一人称和第三人称两种表达角度。”“写作中多采用顺叙、倒叙、插叙、平叙、补叙” 庄涛・胡郭骅・梁冠群主编《写作大辞典》汉语大词典出版社 2003 p. 370.
- (20) 庄涛・胡郭骅・梁冠群主编《写作大辞典》汉语大词典出版社 2003 pp. 527-528.
- (21) 《2012-2016年最新五年高考满分作文》河北科学技术出版社 2016 p. 1.
- (22) 《最新五年高考满分作文》四川大学出版社 2015 p. 139.
- (23) 《最新五年高考满分作文》四川大学出版社 2015 p. 81.
- (24) 《最新5年高考满分作文一本全》江苏人民出版社 2016 p. 136.
- (25) 前掲(1)に同じ。p. 269.

資料

	発行年	書名	出版社	掲載頁
j1-1	2016	最新5年高考満点高分新作文	陝西師範大学出版総社	36
j1-2	2016	最新5年高考満点高分新作文	陝西師範大学出版総社	80
j1-3	2016	最新5年高考満点高分新作文	陝西師範大学出版総社	81
j1-4	2016	最新5年高考満点高分新作文	陝西師範大学出版総社	186
j1-5	2016	2012-2016年最新五年高考満点作文	河北科学技術出版社	9-10
j2-1	2017	最新5年高考満点作文一本全	江蘇人民出版社	202-203
j2-2	2016	最新五年高考満点作文	四川大学出版社	173
j2-3	2016	最新五年高考満点作文精選精評	雲南出版集団・晨光出版社	206-207
j2-4	2016	最新5年高考満点高分新作文	陝西師範大学出版総社	106
j2-5	2016	最新5年高考満点高分新作文	陝西師範大学出版総社	198-199
j3-1	2016	最新五年高考満点作文	四川大学出版社	84-85
j3-2	2016	最新5年高考満点高分新作文	陝西師範大学出版総社	91
j3-3	2016	2012-2016年最新五年高考満点作文	河北科学技術出版社	63-64
j3-4	2016	2016年高考満点作文	鄭州大学出版社	210-211
j3-5	2016	2016年高考満点作文	河北科学技術出版社	195-196
j4-1	2016	最新5年高考満点作文一本全	江蘇人民出版社	140-141
j4-2	2016	高考満点作文—10年記念版	南京大学出版社	115-116
j4-3	2016	最新5年高考満点高分新作文	陝西師範大学出版総社	95-95
j4-4	2016	高考満点作文—10年記念版	南京大学出版社	244-245
j4-5	2016	最新5年高考満点高分新作文	陝西師範大学出版総社	49

Characteristics of Chinese narrative writings; Using model answers for university entrance exam essays as materials

Takako MAEGAWA

Abstract

This paper intends to clarify previously unknown characteristics of Chinese narrative writing. The materials are adopted from the model answer books for Chinese university entrance examinations. These essays are analyzed according to three perspectives: Ichikawa's 1978 method for analyzing the qualitative differences in the contents of the sentences, the six elements of narrative writings, and expressive styles. We identify two characteristics of narrative writings. First, narrative writings are writings that focus on the narration of persons' actions while including their inner lives. Second, narrative writings are not simple descriptions of events; rather, the person and order of speech are chosen to convey the writer's intentions, and both the event itself and its causes and consequences are described. The results show the ways in which Chinese writing education affects how Chinese students may write in Japanese.

Key words: narrative writing, Chinese university entrance examination, model answer, sentence content